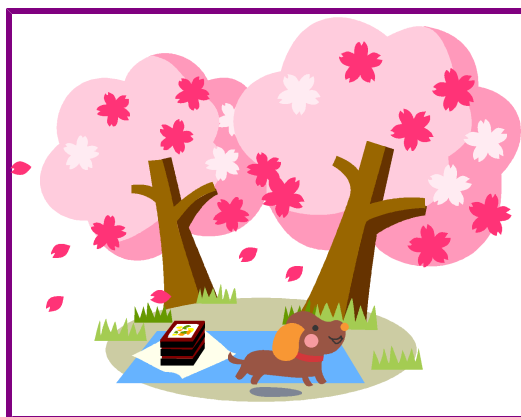


めぐみイエス・キリスト教会

2020年3月1日(日)第一主日礼拝
週報「通算第496号」



2020年標題聖句

第I テサロニケ5章16節~18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時~11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時~7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分~7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年3月1日 第一主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌108「丘に立てる荒削りの」 p. 150

【交読文】 No.51 マタイの福音書5章 p. 920

【賛美Ⅱ】 新聖歌505「主われを愛す」 p. 807

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.7 「私の十字架」

【聖書朗読】 使徒の働き1章1節～2節(新約p. 232)

【祈 禱】

【説 教】 《天に上げられた日まで》 鈴木 竜実 牧師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌198「God Bless You」 p. 294

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝禱後奏】

◎本日の聖書箇所【使徒の働き1章1節～2節】(新約p. 232)

1:1 テオフィロ様。私は前の書で、イエスが行い始め、また教え始められたすべてのことについて書き記しました。

1:2 それは、お選びになった使徒たちに聖霊によって命じた後、天に上げられた日までのことでした。

●ポイント1. テオフィロ(テオピロ)とは？

※ルカの福音書1章1節～4節「初めから綿密に調べて」(新約p.106上段)

1:1 2 私たちの間で成し遂げられた事柄については、初めからの目撃

者で、み言葉に仕える者となった人たちが私たちに伝えたとおりのことを、多くの人がまとめて書き上げようとすでに試みています。

1:3 私も、すべてのことを初めから綿密に調べていますから、尊敬するテオフィロ様、あなたのために、順序立てて書いて差し上げるのがよいと思います。

1:4 それによって、すでにお受けになった教えが確かであることを、あなたによく分かっていただきたいと思います。

●ポイント2.ルカの福音書における最後の場面から

※ルカの福音書24章44節～53節「復活の日と40日後」(新約p.174上段)

●ポイント3. 選ばれた使徒たちに聖霊によって命じたこととは？

※マルコの福音書14章15節～19節「オリーブ山において」(新約p.105)

16:15 それから、イエスは彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。

16:16 信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。

16:17 信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、私の名によって悪霊を追い出し、新しい言葉で語り、

16:18 その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます。」

16:19 主イエスは彼らに語った後、天に上げられ、神の右の座に着かれた。]

※マタイの福音書28章18節～20節「ガリラヤの丘において」(新約p.64)

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「私には天においても地においても、すべての権威が与えられています。

28:19 ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、

28:20 私があなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいます。」

◎先週のメッセージの概要【証しを書いた者とは？】

《「これらのことについて証しし、これらのことを書いた者は、その弟子である。私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。」

『これらのこと』とは、ヨハネの福音書のすべてのことを指します。そして『私たち』とは、ヨハネ自身とエペソ教会の指導者たちを指しています。

ヨハネ第一の手紙の冒頭部分、『初めからあったもの』とは、主イエス様が創造主であられ、最初から存在されておられたことを述べています。

しかし、ヨハネに取っては、生まれて時からイエス様はすでに、叔母マリヤの子である従兄弟として存在されていたのです。ヨハネの人生にとっては、初めからおられたこととなります。また、「私たちが聞いたもの、自分の目で見たもの、じっと見つめ、自分の手でさわったもの」と言うことは、まさにヨハネ自身が、幼い頃から、じかに体験して来たことなのです。

またヨハネの福音書の初めには、『言葉は人となって、私たちの間に住まわれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみ元から来られたひとり子としての栄光である。』と書かれています。

ヨハネが物心ついた時から、イエス様は間違いなく人であられました。そして「私たちの間に住まわれた」と言うことは、神様が人となって、この世界に来て下さったと言う大きな意味と、ヨハネの家族は、叔母マリヤの家族と共に深く関わりあっていたこと、生活していたことを指しています。

そしてヨハネが、主イエス様の栄光を見るのは、主が30才となられ、ラビとして公生涯を始められた時から、三年と半年の間となるのです。

また、ゴルゴタの丘の十字架においては、十二使徒の中では、唯一ヨハネだけがイエス様の側にいたのです。そこには主の母マリヤとその妹である母サロメもいました。ヨハネは、主の命により叔母マリヤを引き取ります。主イエス様は、弟子と言うだけでなく、従兄弟としても本当にヨハネを愛されたのです。そのヨハネが、晩年に第四福音書を執筆しました。》

◎お知らせ

※次回の礼拝は、3月8日(日)です。通常通り行ないます。「聖書の学びと祈り会」は、3月4日(水)に行ないます。また3月11日(水)・18日(水)も行ないます。3月25日(水)は、牧師の都合によりお休みとなります。